

## 促成トマト，春レタスは灰色かび病の 発生に注意しましょう。

### [現在の状況]

- ① 2月下旬現在，促成トマトで，灰色かび病の発病株率が過去 11 年中最も高い。また，春レタスにおいても灰色かび病の発病株率が，過去 11 年中最も高い（表 1）。
- ② 向こう 1 か月の気象予報（平成 21 年 2 月 20 日発表）によると，平年に比べ気温が高く，曇りや雨または雪の日が多いと予想され，発生を助長する条件である。
- ③ 本病は例年 3 月以降に発生が多くなるため，今後の発生増加が懸念される（図 1, 2）。

表 1 促成トマト，春レタスにおける灰色かび病の発生状況

	発病株率 (%)			発生地点率 (%)		
	本年値	(順位)	： 平年値	本年値	(順位)	： 平年値
促成トマト	9.3	(1)	： 2.1	67	(1)	： 21
春レタス	1.2	(1)	： 0.1	40	(1)	： 3

※順位は過去 11 年中の順位，平年値は過去 10 年間の平均値

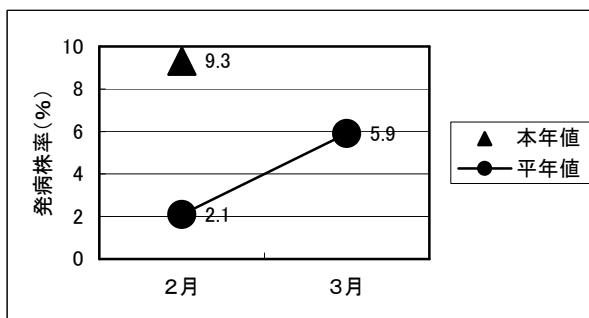


図 1 促成トマトの灰色かび病の発病推移（10 年間の平均値）

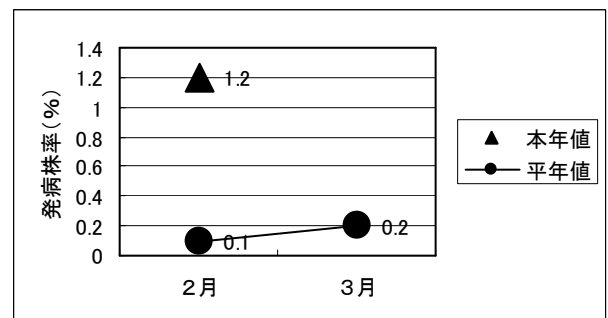


図 2 春レタスの灰色かび病の発病推移（10 年間の平均値）

### [防除対策]

#### 【促成トマト】（病害虫ミニ情報 1 月号参照）

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪い花卉や発病部位は早急に取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。
- ④ 薬剤散布は，薬液が乾きにくくなる午後からは行わず，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

- ⑤ 薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤（表 2）をローテーション散布する。

【春レタス】

- ① トンネル内が多湿になると発生が助長されるので、換気によりトンネル内の湿度を低く保つ。  
 ② 結球期には、株元が繁茂して過湿となるため、発生に注意する。  
 ③ 発病部位は、早急に取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。  
 ④ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。  
 ⑤ 薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤（表 2）をローテーション散布する。

表 2 トマト及びレタスの灰色かび病に登録のある主な薬剤（平成 21 年 2 月 18 日現在）

系統(成分)番号 <sup>1)</sup>	薬剤名 (有効成分名)	灰色かび病に対する登録の有無	
		トマト	レタス(非結球レタスを除く) <sup>2)</sup>
①	フルピカフロアブル (メパニピリム)	○	
②	セイビアーフロアブル 20 (フルジオキシニル)	○	
②+③	ジャストミート顆粒水和剤 (フルジオキシニル+フェンヘキサミド)	○	
④	ゲッター水和剤 (チオファネートメチル+ジエトフェンカルブ)	○	○
⑤	スミレックス水和剤 (プロシミド)	○	○
	ロブラール水和剤 (イプロジオン)	○	○
	ロブラールくん煙剤 (イプロジオン)	○	
④+⑤	スミブレンド水和剤 (プロシミド+ジエトフェンカルブ)	○	○
⑥	ベルコート水和剤 (イミノクタジン)	○	○
⑦	ポリオキシ AL 水和剤 (ポリオキシ)	○	
⑧	カンタスドライフロアブル (ボスカリド)	○	○
⑨	ボトキラー水和剤 (ハチルス スブチリス)	○	○
	インプレッション水和剤 (ハチルス スブチリス)	○	○

1) 系統（成分）番号に対応する系統名は以下のとおり。

- ①：アニリノピリミジン剤，②：フルジオキシニル剤，③：フェンヘキサミド剤，④：ジエトフェンカルブ剤，⑤：ジカルボキシイミド系剤，⑥：イミノクタジンアルベシル酸塩剤，⑦：抗生物質剤，⑧：ボスカリド剤，⑨：微生物剤

2) レタス（非結球レタスを除く）については収穫前日数に注意する。特にベルコート水和剤は収穫 30 日前までなので十分注意する。

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。